

教育目標		元気でよく遊ぶ、心あたたかい子どもを育成する 心も体も元気な子 自分をいきいきと表現する子 互いを認め合い思いやる子 仲間とともに育つ子						
保育の視点		子どもたちの伝え合う姿を育む保育に取り組む						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	教育課程・研究推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの伝え合う力を育む保育の実践</li> <li>職員の連携を意識した保育の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育の中にペア活動を取り入れ、異年齢活動と子どもの伝え合う力とのつながりを探る。</li> <li>園内研究会を行い、互いの保育や環境構成を見合い教師の保育スキルの向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア活動やパブリックスペースについて計画し実行する。</li> <li>ペア活動や一つの保育において各学年のねらいを明確にし、職員で共通理解しながらすすめる。</li> <li>ペア活動後には課題や良かった点を出し合い、次回の活動につなげ継続して取り組む。</li> <li>学期に1回以上の園内研究会の実施。</li> <li>共同研究園の研修に、担任が1人1回以上参加する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア活動やパブリックスペースについて職員間で話し合い、計画的に実行することができた。そのことでクラスや学年を越えて自然にかかわりが増えてきている。</li> <li>異年齢でのかかわり表の作成に取り組んでいる。</li> <li>共同研究園の研修に参加できたことにより、自園の研究や保育にも取り入れることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週案の話し合いに、パブリックスペースやペア活動についての内容を取り入れ、これまで以上に、保育内容や子どもの姿を把握していく。</li> <li>今年度の表をもとに、意図的・計画的にペア活動を行い、平成29年度中の表の完成を目指し取り組んでいく。</li> </ul>	行事の姿などから、子どもの主体的、意欲的な様子が分かった。
	健康教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立</li> <li>広い園庭環境を活かした保育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週に一度「元気っ子タイム」を設け、その週の目標を「にこにこカード」や視覚教材を用いながら子どもに啓発する。</li> <li>園内でのほけんの話、保護者に向けてのほけんだよりなど生活習慣について家庭で考えられるよう啓発する。より意識して取り組むことができるよう、げんきカレンダーを実施する。</li> <li>伝え合う力や、生活習慣の見直し、意識の向上につながるよう、保健室の環境整備や保育内容を工夫する。</li> <li>担任同士が連携し、子どもの実態に合わせた運動遊びや戸外遊びの内容を考慮し設定、展開していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ多くの「げんきカレンダー」を回収し、成果と課題を明確にする。</li> <li>日々の生活の中で正しい生活習慣が身につく、子ども自身がその大切さに気づき、自らすすんで取り組もうとする。</li> <li>教師間で、戸外遊びでのねらい、子どもの実態、遊びの内容の共通理解をする。また、好きな遊びの環境について定期的に見直しを行い子どもの姿やねらいに合わせた環境づくりを行う。</li> <li>自分で育てた野菜をみんなで食し、おいしさや喜びを共有する場の確保</li> <li>職員が連携し、子どもの実態把握や具体的な支援方法を出し合い実践する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>養護教諭、担任が連携し週1回の元気っ子タイムの実施、げんきカレンダーの継続した取り組みをすすめることができた。保育室の掲示や、歯磨き指導なども子どもの姿に合わせて行っている。日々の保育の中での細やかな指導を今後も意識して取り組んでいく。</li> <li>健康教育について、定期的なHPの更新を心がける。</li> <li>1学期の頃から、律動遊びに継続して取り組むことで、一人一人の力につながった。</li> <li>身体の使い方や運動の基礎を身につけられるよう保育を考え、園にある教材も使いながら取り組む。また、家庭への啓発を行い保健活動にもつなげていく。</li> <li>人権・性的マイノリティーなどについて職員で考え意識するとともに、その意図を保護者にも伝えていく必要がある。</li> <li>育てた野菜を子どもたちと一緒に食べることで、おいしさや育てた達成感を共有し、大切に育てる気持ちにつながった。</li> <li>時間を見つけて、子どもの様子を話し合い、担任だけではなく複数の職員がクラスに出入りしてきたことで、園全体で子どもの実態把握することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週案に保健の枠を組み込み、見直しをもった計画や保育内容を共通理解できるよう取り組む。</li> <li>養護教諭、担任が連携し、毎回の取り組みを継続して行うことができるよう園全体で心がけていく。</li> <li>異年齢活動についての保育計画を立てるとともに、具体的な環境構成なども合わせて週案に取り入れていく。</li> <li>子どもの課題や成長に合わせて、遊びの内容や今後の異年齢活動について細やかに話し合いながらすすめていく。</li> <li>学級懇談などで職員の意図を伝え、保護者の方も人権について考える機会になるような場をもつことで保護者啓発を行っていく。</li> <li>コンサルテーション、巡回相談など園以外の他機関とも連携し、子ども一人一人の課題を明確にしていく。</li> </ul>	子ども同士のかかわり、1年間の成長がよく分かった。今後も引き続き職員が連携した保育を続けてほしい。
豊かな心・健やかな体	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>人とかかわりや伝え合いに視点を置いた保育実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>飼育、栽培の機会を多くもち、収穫の喜びや命の尊さ等を共有していく。</li> <li>子ども同士のつながりや伝え合う姿につながるよう支援していく。</li> </ul>					
	特別支援教育							
開かれ信頼される学校園	保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域とかかわりを深め、保護者、幼稚園、第3者が一緒に子どもの成長を見守っていく体制を整える。</li> <li>伝え合う力を育むために、保護者への絵本貸出、親子での絵本タイムに取り組む。</li> <li>おぎのっ子タイム毎月1回15:00までを取り入れる。</li> <li>HPや園長通信を通し保育の様子を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区社協行事には、毎回職員1名以上が参加する。</li> <li>園児自らが地域に出向き、地域の方とのつながりの場をもてるよう保育を行う。</li> <li>保護者がいつでも絵本を借りることができるよう職員室前に絵本棚を設置する。</li> <li>保護者向けに絵本の読み聞かせを行い、また子どもと共に親子で絵本を読む時間を取り入れる。</li> <li>伝え合う力について、家庭教育講演会を行う。</li> <li>HPは月1回以上の更新をする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、地域の方に来てもらうだけでなく、自ら出向き地域の方に温かく迎えてもらうことで、子ども達の自尊心の向上につながった。</li> <li>昨年度に引き続き、保護者向け絵本の読み聞かせ、貸し出しを行うことができた。保護者の貸し出し数が昨年より増えた。</li> <li>HPは月1回でなく、行事の度に更新したことで、園を大切にしていることや、園児の様子を発信することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、地域とかかわりをもつことができるよう園全体で意識して取り組み、保育の中に取り入れていく。</li> </ul>	開かれた幼稚園という視点では、子どもの成長が、園内だけでなく、保護者や地域に伝わるように取り組んでいくことが大切である。	
その他	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全で過ごしやすい生活の場としての環境作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検日を年間計画に取り入れ園だよりにも記載し、職員の意識向上に努める。</li> <li>様々な場面を想定した避難訓練を行い、安全について子どもと考える機会を設ける。</li> <li>遊びの後には、子どもと園庭清掃を行う。</li> <li>保護者と共に安全な環境づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員の目で日頃から安全点検に努める。遊具や用具、園庭や保育室内を常に安全に保つ。</li> <li>2か月に1回以上の避難訓練の実施。子どもが自分で自分の身を守る方法を知る。</li> <li>子ども自身も意識し、園全体としてきれいな園を保つ。</li> <li>参観日毎に、園庭清掃などの活動に取り組む。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>園庭の安全管理、清掃などは大人にやってもらうだけでなく、園児も共に活動することで、自分で園を作り上げようという気持ちにつながった。</li> <li>安全点検は、計画的に行うことが難しかった。リスク回避の視点から改め予防策に努めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児が自分で環境を整える気持ちをもてるよう、今後も積極的に取り組む。</li> <li>週案の話し合い時に安全点検の予定を確認し、計画的に予防に努める。</li> </ul>	